

ドイツ紙器業界と FachPack2018 の視察ツアー< I >

9月25～27日、ニュルンベルグで FachPack2018 を開催

ドイツを中心にした欧州の 印刷紙器・段ボール箱・貼箱企業が多数出展 新開発の紙器パッケージを熱っぽくアピール!



メッセ・ニュルンベルグ会場の東ゲート

メッセ・ニュルンベルグは、9月25日から27日までの3日間にわたり、ドイツ・ニュルンベルグ市のメッセ会場で、FachPack2018を開催した。包装に関する「新しい資材・新しい技術」を一堂に集めた展示会で、ドイツを中心にした欧州の印刷紙器・段ボール箱・貼箱企業が多数出展するとともに、資材メーカー、紙工機械メーカー、包装機械メーカーも出展した。有功社シトー貿易㈱と弊社は、世界的な打抜用資材メーカーであるシトー・システム社の協力を得て、ドイツ紙器業界へFachPack2018の視察ツアーを企画、9月24日から29日までの間、このFachPack2018とシトー・システム社、さらにニュルンベルグ近郊に所在する中堅規模の印刷紙器会社2社を訪問した。今号では FachPack2018 のレポートを掲載。

この展示会でもっとも印象的であったのが、「紙器パッケージ会社のプロモートの手法、つまり自社のパッケージ製品群を

のものや生産方式、経営理念をいかに世界から集まる顧客に向けてアピールしていくか」という点であり、ブース担当者の熱心な説明を、時のたつのも忘れて聞き入った。

drupa、Interpackでは一部を除いて、機械が中心となるが、この展示会では「パッケージ」そのものを展示しているのだが、「実演する機械展」と同じような熱気と活力が感じられた。さらに紙器パッケージについては、プラスチック包装容器に対しての環境負荷が圧倒的に少ないことも強調していた。メッセ会場は1～9ホールまでを使用して開催されたが、見学日程が26日のみであったため、今号では、展示ブースのなかから大中小の紙器パッケージ会社のブースのようを紹介する(次号では FachPack での紙器パッケージ会社・資材会社・板紙メーカーの出展の模様と、シトー社見学、印刷紙器会社2社の訪問記を紹介する)。

欧州の印刷紙器・段ボール箱・貼箱企業が多数出展

CITO-SYSTEM 社
(ドイツ)

今回の視察ツアーではドイツ紙器業界視察のコーディネーター面でも協力を得ているシトー・システム社(ユルゲン・マリエン社長)は、「すべての紙器パッケージが高品質かどうかを決めるのは、抜き工程の良しあしであり、シトー社はそのサポートを世界のお客様に提供している」とコメント。CITO BoxLine、CITO FormLine、CITO Procellineならびに Polytop MX を展示した。

(シトー社の製品開発、経営戦略など詳細は、同社でプレゼンテーションがあったため次号で掲載)



シトー社ブースの前で



KAUER 社 (ドイツ)

同社はKOLBグループの1社だが、中心的な紙器・段ボール箱・ディスプレイなどを製造する総合パッケージ会社。

「KAUER社は1928年の設立で、90年の歴史を誇る会社。この間、弊社はお客様からパッケージのデザインや構造などについて多くの要求をとりこみながら、当社スタッフは創造力を駆使してその会社にとって最適な「カスタマーズ・ソリューション」を提供している。1950年代には、弊社は全視的な技術開発を進めてきたところから、「合紙貼合マーケット」における先駆者の存在となった。1993年からは、オフセット印刷した薄紙を段ボールに貼ってボックスにする合紙貼合品の本格生産体制を確立した。2012年には、インラインによる合紙貼合品をオートマチックに生産するための最新鋭設備を導入した。現在では、弊社の社内デザイナーとプリプレス部門のスタッフ、新鋭設備によって生み出される合紙貼合品をはじめとするパッケージは、革新的なアイデアと斬新なデザインとがあいまって、お客様のニーズとハートを掴むことに成功している」とマルセル・ハウ



グ氏は語った。

KOLBグループはドイツ・デッティンゲンを含め5カ所の生産拠点をもち、従業員数は約1000人規模。主な需要分野として電気器具・飲料・食品・菓子・ガーデニング用品・レジャー用品・玩具・雑貨品など多岐にわたる。

「とくにこれらの合紙貼合品の最大のねらいは、販促効果を最大限に引き出すことであり、貼合用の薄紙への印刷には多くの技術とデザイン力を投入している。印刷についてはKOLB PrePrint + OffsetPrint + Post Print + DigitalPrintの4つの技術を駆使しながら、専門的知識を身につけたスタッフはお客様に対して、きめ細かなアプローチを展開している」と強調した。とくに合紙貼合品の展示では、ECOBXの多彩なバリエーションを展示、まさに来場者の



環境対応に視点を置いた段ボール箱 ECOBOX

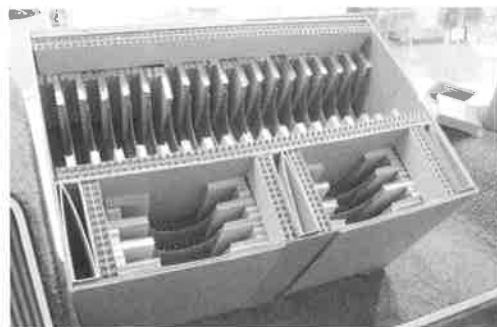
目を引いていた。「ECOBOXはその地域における持続可能なコミュニケーションツールとしても機能するパッケージ。スーパーマーケットにおいて、小さなスペースでありながらも人の目をひく綺麗なデザイン印刷がボックス全体に施されている。もちろんリサイクル素材であり、環境にやさしい。ECOBOX Familyは、容量35リットルで、プラスチックのバスケットの代替品として伸びを期待している」とハウグ氏は付け加えた。

Grifal社 (ドイツ)

同社は、商品保護用の段ボールを中心に躍進を続けるドイツの企業。50年ほど前に設立され、現在、本社工場はシュツガルトに所在、3万㎡の敷地に事務棟・生産棟・開発棟を持ち、ニーズにあった機能性重視の段ボール箱・緩衝剤などを意欲的に開発している。さらに欧米のパッケージには「商品名」をつけて提供するのが一般的だが、同社の「Mondaplen」、「Artus」など欧州を中心に普及している。「Artu Cushioning Box」、「Artu Cushioning Die-cut Box」はプラスチック発泡材に匹敵する保護機能を持つ古典的な段ボール箱だ。Artu Bottle Boxは瓶の輸送に適した段ボール



箱「Artu Food」は食品用の段ボール箱で、最小限の環境負荷とエレガントなデザインが特徴。Wine boxes-Mondaplenは堅牢で魅力的な六角形の構造をした段ボール箱で、ワイン保護用に開発された段ボール箱。とくに2016年に開発されたArtuは、100%リサイクル商品であり、CO₂を74%削減できる。廃棄物という点でもプラスチック容器に比べ、容量を90%以上削減できる。当社では試験室も備えており、ISTA (International Safe Transit Association) に準じたテストも常に実施し、環境対応は優先的課題としてとらえている(シモーナ・ドンドソラ氏)として、これらの段ボールを出展した。



段ボール箱を廃棄するさいにその容量を90%削減できるというcArtuシリーズ



2015年に開発したe-commerce 対応の段ボール箱も同社の大きな特長。「電子商取引市場の急速な発展に伴い、輸送上のストレスにも十分対応できる柔軟性のあるパッケージは必要不可欠。中身商品を保護するパッケージは、世界中を早いスピードで駆け回らなければなら

欧州の印刷紙器・段ボール箱・貼箱企業が多数出展



Sapril 社のパッケージ



Sapril 社 (チェコ)

ないために、特別な包装設計が要求される。この巨大市場で求められるパッケージとは、商品の高い保護性、ブランドイメージの確保、輸送コスト軽減・廃棄物削減のための最小容積・容易な開封性などであり、今も研究開発をすすめている」とした。

1999年に設立のチェコの段ボール会社。「当社はチェコ共和国とEU圏を主な市場として段ボール箱を供給している。顧客との長期的な関係を維持しながら、最高の品質の段ボールを提供することをモットーに事業展開している。生産工場は2万㎡のスペースがあり、従業員の約半分が生産と開発に従事

しており、新規パッケージの開発にはとくに力を注いでいる。あわせて包装資材の製造、各種パレットの製造、ロジスティックスの提案などもおこなっている」とルーカス・アルト氏は語る。

同社の開発部門では、コンストラクション・チーム(構造設計)を設け、「お客様のニーズを的確に取り入れたパッケージ設計、グラフィックアートとそのソフトの開発、3Dデータ処理、サンプル提供などをおこなっている」としている。

同社製品は、あらゆるタイプの段ボール箱、平滑性を保持した段ボール箱、プラスチック段ボール、木製・金属性パレット、接着剤と結合テープなどの包装資材などを製造している。

BayPack 社 (ドイツ)

同社は、高品質でブランドネームなどを綺麗に表現する、外装用段ボール箱の製造をメインとする企業。SRC (Shelf-ready Packaging) にも力を注いでいる。段ボールの印刷・打抜き・製箱の設備の充実をはかり、ニーズにあった段ボール箱の供給を進めている。

「当社の経営方針として、サプライチェーンにおける物流コストの削減をお手伝いするこ



旬の野菜やフルーツをさらに美味しくみせる美粧段ボール箱

と、さらにお客様がより販路を拡大できるようなパッケージ作りを常に提案している。その意味からもとくにSRPの開発には力を入れており、このためのきめ細やかな手法を実践している。お客様の要望にあったSRPを開発するためには、まず白



MM Packaging のブース

同社は1888年、オーストリアのフロムレットで、パルプ・ミル工場として創業した大規模企業。1903年にはオーストリア初となるサーキュラー式抄紙機を導入、その後、ドイツやオランダ、スロベニア、ノルウェーの製紙会社・パルプ会社を買収をしながら、紙器パッケージの生産体制も確立している。日本で言うところの製紙一貫メーカーで、ヨーロッパ全域インダストリー・カーソンを供給してい

Mayr-Melnhof Packaging
International社
(オーストリア)

サンプルをCADシステムにより提供、常にフリーフィングを積み重ね、スピーディーに製作していく。これらの開発チームには、紙・板紙の専門家とパッケージの専門家がアイデアを出し合っており、複雑なパッケージの要求にも応えている。SRPではデザイン性とあわせ、お客様が簡単に引き出しやすい構造設計も必要不可欠な条件となる。POSの設計も重要課題としてとらえている」と担当者は語り、新製品としてアスパラガス5kg用の美粧段ボール箱、フルーツのセット詰め美粧段ボール箱を出展した。

る。需要分野としては、食品と非食品（医薬品・化粧品・パーソナルケア用品・タバコ・SRPなど）のあらゆる市場に向けて、紙器パッケージを供給している。

「当社は、製紙企業として設立された会社で130年余りの歴史がある。欧州における製紙工場、板紙工場を買収しながら、国際化と多様化に対応してきた。紙器パッケージにおいても世界の顧客の要望を取り入れながら、板紙そのものの研究開発も併行して進めてきたおかげで、安全性が優先される食品用の紙器をはじめ医薬品用の紙器においても、斬新な製品を世界に向けて供給している。単に食品用紙器パッケージといっても、ドライフード・子供向け食品・冷凍・チョコレート・菓子・ファストフード・飲料・フルーツ・生鮮食品・野菜など多種多用途だ。たとえばドライフルーツの紙器パッケージにおいては、そのフードの乾燥度・湿度・脂含有度などを含め素材選びも大事な要件であり、またその食品を直接、紙器に入れるのか、二重包装にするのか、中身食品が壊れやすいものかどうか、腐敗するかどうかなど、千差万別の対応が必要となる。チョコレートなどの紙器パッケージにおいても、温度・光の照射・



多彩な印刷紙器、トレイ、合紙貼合品



Shaped Cartons

欧州の印刷紙器・段ボール箱・貼箱企業が多数出展



季節による環境変化・市場での滞留時間など多くの要件を満たさなければならぬこととあわせ、表面デザインもスポットニス、エンボス加工、箔押しなどキメ細かな対応を迫られる。食品分野において、当社が製造するフォルディング・カートンの数は年間、数千億個にのぼるが、それぞれのロットごとに、印刷・加工方法も適切な方法を選択して生産している。表面デザインの良し悪しを決める印刷行程においても、オフセット・フレキソ・グラビア・デジタルなど、すべての要望にフレキシブルに対応できる設備を整えている」とステファン・ミュラー氏は語る。

紙・板紙製造についても、厳格な品質基準を定めて、新製品

の開發に挑んでいる。GT1、GT4、UT2、UT4、GD2、GD3、UD2、GKなど用途に応じた紙・板紙を製造している。新開發の紙器 Shaped Cartons ほか多彩で綺麗なパッケージを数多く展示した。

Spiegel Verpackungen 社
(ドイツ)

同社は1914年、ドイツのヴュルツブルグ近郊で創業した老舗の印刷紙器会社。マーケットはヨーロッパ全域をカバーしており、躍進する紙器パッケージ企業で、医薬品パッケージの生産基準としてのGMPはじめ、食品用パッケージ対応のHACCPも取得、さらに数多くのアワードを受賞している。

「当社は設立から104年目になる紙器パッケージ会社で、4世代にわたり経営をつづけるファミリー企業。グラフィックデザイナーをはじめ紙器のデザインから構造設計まで社内で行い、生産工程においても専門スタッフによりワークフローの最適化を常に目指して事業展開している。需要分野は飲料を含めた食品全般、それに医薬品・化粧品・健康食品・洗剤・家庭用品・エレクトロニクス品・スポーツ用品と幅広い。最近ではPOSもてがけている。当社が

掲げているのは、高品質で創造性あふれる斬新なデザインを施した紙器パッケージの製造だ」とマーチン・シュピーゲル氏は説明した。

会場では医薬品はじめ化粧品関係の斬新なデザインの印刷紙器を展示した。



医薬品・化粧品関係の斬新なデザインの印刷紙器パッケージ

SCHELLING 社 (スイス)

同社は1876年創業の家族経営の紙器パッケージ企業。スイスのラッペルスビルに本社・工場を置き、シャフツスハイム、オエンジゲン、レイナツハにも生産拠点を置いている。ドイツ・フランクフルト近郊のハーナウにも事業所を置いている。最近では、ビルクハウザー社、R&Sデイスブレイ社を買収、従業員数は150人ほどの規模になっている。

「当社は高品質の印刷紙器・段ボール箱・ディスプレイなどの紙器パッケージとチラシ・ラベルなどの商業印刷も展開している。設備としてはオフセット印刷機、デジタル印刷機、平盤打抜機、自動製箱機、CADシステムなど、常に最新マシンを導入して対応している。140余年という長い歴史のなかで培われた技術により、お客様の抱える多くの問題に対し、各社ごとに解決策を提案することをモットーに事業展開している。さらに持続可能な環境問題への対応も重要課題であり、すべての生産工程だけでなく、製品開発・材料の選択・物流の見直しなど総合的に配慮した事業展開をしている」と担当者は説明した。



小さく精密で斬新な表面加工技術を駆使した印刷紙器から大型ディスプレイまでを展示



パッケージ関係では、販促効果を前面に打ち出した印刷紙器を「Sales Packagings」と呼び、8色印刷・ニスコート・エンボス・箔押しなど複合的に組合せて提案していた。プレゼンテーションやノベルティなどの「Presentation Packagings」、人目を引く組立式の段ボール箱「Shelf Ready cardboard boxes」、一般的な段ボール外装箱としての「Transport and protective Packagings」、さらにトレイ類も展示した。

Modal社 (スイス)

同社は1882年創業、スイスに本社を置く総合紙器パッケージ企業。135余年の歴史の長いパッケージ会社で、欧州8カ国に10の子会社を保有する大規模企業。従業員数は約4300人。市場としては、スイス、オーストリア、ベネルクス、フランス、チェコ、ポーランド、スロバキア、ウクライナ、クロアチアなど、東ヨーロッパもカバーしている。

印刷紙器では高級ブランドの香水用の印刷紙器(エンボス、金銀の箔押し加工)、レーザーカットした表面を使用したインテリアボックス(印刷紙器)、高級ワイン6本を収納する美粧印刷の段ボール箱、あらゆる形状にダイカットした2枚の板紙で挟む印刷紙器(特殊接着)、郵便輸送が可能なカラフルなギフトボックス(デジタル印刷処理した段ボール箱)など、美しい紙器・段ボール箱を展示した。

「当社はお客様の要望に応えて、特別仕様の紙器パッケージも数多く開発している。高級品を納めるパッケージについては、芸術品ともいえるレベルのデザインを施し、表面加工技術もこれまで培ったノウハウを駆使して製造している」と担当者



これまで培った表面加工技術を駆使した印刷紙器

欧州の印刷紙器・段ボール箱・貼箱企業が多数出展



会場エントランス



メッセ・ニュルンベルグ会場の東ゲート



大型ディスプレイ

は説明した。

DS SMITH 社 (イギリス)

同社はヨーロッパ34カ国に生産拠点を持つ大規模パッケージ企業。需要分野は食品・非食品を含め、ほぼ全カテゴリーをカバーしている。従業員は2万2800人という規模。

多種多様な印刷紙器と美粧段ボール箱、アイデア満載のディスプレイを展示した。SRPはじめ輸送用・販促用に効果の高い外装段ボール箱、LifeSize Experience Displaysとして等身大のPOPも人目を引いた。

「街で見かける小型乗用車とほぼ同じサイズの自動車型ディスプレイは、子供さんをはじめ



商談でにぎわうブース

お店に来たコンシューマーの目を引くデザインと構造になっており、車の上半分が陳列棚という設計になっている」と担当者は話した。

重い部品を輸送するために開発された段ボール箱は「長距離輸送にも耐えられる構造になっていることはもちろん、緩衝材も100%段ボールでフレキシブルに対応できる設計システムを開発している。この方法であれば、どのような形状の重量物であっても、最小の容量で衝撃を吸収することができる」とした。(つづく)